

# 桐生市環境先進都市 将来構想

## 産学官民で低炭素社会を実現

「環境先進都市」を目指すための基本方針や行動指針を示した『桐生市環境先進都市将来構想』を作成しました。問い合わせは、企画課環境都市推進係（☎内線575）へ。



世界的なエネルギー問題や地球温暖化対策に注目が集まる中、本市では、産学官民が一体となって脱温暖化対策やエネルギーに関する様々な環境施策に取り組んできました。

### 30年後の将来像 実現に向けて

「環境先進都市」を目指すためには、長期にわたる継続的な取り組みが求められることから、この構想の期間は30年間とします。

ただし、長期にわたるため必要に応じて5年を目安に見直します。

### 市全体の将来像

30年後の市全体の将来像は、次のとおりです。

①再生可能エネルギーが大量に導入されたまち

そのような取り組みを進める一方で、人口減少や少子高齢化などの様々な課題が生じており、これらの解決も急務になっていきます。

このようなことから、温室効果ガス排出量の削減や本市が抱える課題解決にもつなげるため、地域特性を最大限生かし、エネルギー分野に特化した「桐生市環境先進都市将来構想」を作成しました。この構想では、産学官民による協働と連携の方策を探ります。

その上で、革新的な技術や製品が最大限活用された未来の低炭素社会である「環境先進都市」を創造することを目指します。

・太陽光、畜産・木質バイオマス、小水力などのエネルギーを活用した発電設備が多くの場所に設置され、蓄電設備も大量に導入されている

・太陽熱、地中熱などのエネルギーを活用した設備が多くの場所に設置されている

②省エネルギー型のまち

・多くの住宅・オフィス・商業施設などは、地元産木材を最大限活用し、ゼロエネルギー住宅・事業所などになっている

・日常生活・業務における省エネルギー行動（節電・節水など）が実践されている

・中心市街地では、日常生活に必要な都市機能が徒歩や自転車の移動圏内に形成されている

・公共施設が適正に配置され、エネルギーの低減化が図られている。また、高等学校についても駅周辺にコンパクトに集約化され、公共交通を利用しやすい立地となっている

・徒歩、自転車、公共交通、次世代自動車などの利用を優先した環境負荷が少なく、より安全で利便性の高い総合的な交通体系が確立されている

・エネルギーの効率的な利用などにより低炭素化が進み、エネルギー消費量が大幅に減少したまちとなっている

③自立分散型のエネルギーシステムが構築されたまち

・地域の拠点施設においては、自立分散型のエネルギーシステムが構築され、災害に強いエネルギーの供給体制が確立されている

・エネルギーをエリア内で効率的に利用するスマートグリッド（次世代電力網）などを活用したスマートコミュニティが形成されている

10年後までに成果を創出

将来像実現に向けて、様々な取り組みを行います。当面の目標として、「10年後までに一定の成果創出を目指す取組」を併せて示します。

・日常生活・業務における省エネルギー行動（節電・節水など）が実践されている

・中心市街地では、日常生活に必要な都市機能が徒歩や自転車の移動圏内に形成されている

・公共施設が適正に配置され、エネルギーの低減化が図られている。また、高等学校についても駅周辺にコンパクトに集約化され、公共交通を利用しやすい立地となっている

・徒歩、自転車、公共交通、次世代自動車などの利用を優先した環境負荷が少なく、より安全で利便性の高い総合的な交通体系が確立されている

・エネルギーの効率的な利用などにより低炭素化が進み、エネルギー消費量が大幅に減少したまちとなっている

・地域の拠点施設においては、自立分散型のエネルギーシステムが構築され、災害に強いエネルギーの供給体制が確立されている

・エネルギーをエリア内で効率的に利用するスマートグリッド（次世代電力網）などを活用したスマートコミュニティが形成されている

・日常生活・業務における省エネルギー行動（節電・節水など）が実践されている

・中心市街地では、日常生活に必要な都市機能が徒歩や自転車の移動圏内に形成されている

・公共施設が適正に配置され、エネルギーの低減化が図られている。また、高等学校についても駅周辺にコンパクトに集約化され、公共交通を利用しやすい立地となっている

・徒歩、自転車、公共交通、次世代自動車などの利用を優先した環境負荷が少なく、より安全で利便性の高い総合的な交通体系が確立されている

# 名誉市民に

## 笹川 堯さん

たかし



市では、議会の同意を得て、元衆議院議員・笹川堯さんを桐生市名誉市民に推挙することに決めました。

笹川さんは、昭和61年初当選以来連続7期衆議院議員を務められ、郵政政務次官や衆議院地方分権に関する特別委員長、衆議院法務常任委員長、科学技術政策担当大臣などを歴任され、23年もの長きにわたり、政治に対する比類なき情熱と卓越した手腕、誰からも尊敬されるお人柄をもって、日本のため御活躍されました。

郷土桐生においても、この間、赤岩橋や錦桜橋の架け替え、中通り大橋の開通、陸上競技場の全天候化事業の推進などに力を注がれ、さらには、公営競技である桐生競艇事業の運営に尽

力されたお陰で、その収益がひっ迫していた市財政立て直しの力になるなど、笹川さんの功績は枚挙にいとまがありません。

笹川さんは、桐生市8人目の名誉市民となります。

問い合わせは、秘書室秘書係（☎内線512）へ。

### 将来像を実現するための 主な具体的取り組み

※は、「10年後までに一定の成果創出を目指す取組」  
①再生可能エネルギーが大量に導入されたまち

◎市民参加型（市民出資など）の再生可能エネルギー発電所の整備  
◎木質バイオマス発電施設の整備

◎公共施設への再生可能エネルギー設備の整備  
◎再生可能エネルギー設備導入箇所において蓄電設備も併せて整備

◎「メイド・イン桐生の小水力発電設備」の整備  
◎メガソーラー発電所の整備  
◎エネルギー学習施設の整備

◎再生可能エネルギーなどを活用した電気自動車の充電スタンドの整備  
・畜産バイオマス発電施設の整備

②省エネルギー型のまち  
◎公共施設の適正配置  
◎日常的な省エネルギー行動の実践

◎農産物などの地産地消（物流の低炭素化）  
◎地元産材を活用した木塀・竹垣の導入

◎次世代自動車の導入  
◎電動アシスト自転車の導入

◎コミュニティサイクルの実施  
◎ゼロエネルギー住宅モデル街区の整備

◎省エネルギー設備などの導入  
◎超小型モビリティの導入  
◎電動コミュニティバスを観光などに広く活用



・コンパクトシティの整備  
・ランジットモールの導入  
・環境に配慮した交通体系の構築

・地元産木材を最大限活用したゼロエネルギー住宅・事業所などの建設  
③自立分散型のエネルギーシステムが構築されたまち

◎防災拠点（市庁舎・都市機能を持するため施設など）へ太陽光発電設備や蓄電設備などを整備

◎避難所（集会所・公民館・学校など）へ太陽光発電設備や蓄電設備などを整備

・スマートグリッド（次世代電力網）を活用したスマート

コミュニティを形成  
・スマートコミュニティモデル街区の整備

・既存の電力系統のみに依存しない電力供給体制の整備（分散型電源のネットワーク化など）

### 期待される 最終的な波及効果

将来像実現により次のような波及効果を期待しています。  
・市民の皆さんの市に対する愛着が増す

・市外からの移住者や交流人口の増加などにより人口減少に歯止めがかかり、まちが活気にあふれる

・まち全体としての魅力・ブランド力が高まる

・市民の皆さんは、物質的・経済的「豊かさ」を実感することができ、安全・安心や楽しさによってより大きな「幸福感」を得ることができると期待しています。

この構想は、図書館や各公民館で閲覧できるほか、市ホームページで公開しています。